

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2173100351		
法人名	医療法人純真会		
事業所名	ほほえみグループホーム (1F)		
所在地	岐阜県可児市下恵土3005番		
自己評価作成日	平成30年8月22日	評価結果市町村受理日	平成30年11月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2173100351-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2173100351-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成30年9月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ほほえみグループホームが開設され16年になり、利用者の高齢化と共に、介護度も上がってきている。日頃より特に体調管理には気を付けている。毎日の体温、血圧の測定。食事の摂取量に水分摂取量。その日の勤務者で利用者の体調を把握している。状態によっては、訪問看護師への連絡、そして主治医へとつないでいる。入院時には、医療連携室を通し、主治医、担当看護師との連絡を図りながら早期の退院へと結びつけている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は住宅地の中にあり、歩いて行ける距離で、スーパー、コンビニ、母体のクリニック等がある。事業所の前は、小学生の通学路になっている。法人は、複数の福祉事業所を運営しており、各事業所と連携しながら、地域に密着した事業を展開している。職員の資格取得や様々な研修受講を支援し、介護技術のスキルアップと共に人材育成にも力を入れている。管理者は、法人内に職員の為に保育所を作ったり、有給休暇や育児休暇を取りやすく配慮するなど、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。また、職員は、利用者の残存能力を維持できるようケア方法を工夫し、最期まで穏やかな日々を過ごせるよう支援している。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(1F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者に寄り添いながら、職員一人一人が気付いたことを、職員同士で話し合いながらその日のうちに解決しなければならないことはその日のうちに解決している。	職員会議や申し送りの際に、理念を確認し合い、日常のケアの中で実践に繋げている。改善点については職員同士で話し合い、解決策を考え、利用者サービスの向上に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	生け花展や舞踏会などご近所の方からの誘いがあり出かけている。ホームのイベントにはご近所の方をお誘いし来て下さっている。園児や小学生との交流も行っている。	事業所の祭りには、利用者家族や近隣住民を招待している。日常的に地域のボランティアが来訪したり、地域の誘いでイベントに参加し、交流をしている。また、小学生との交流会では、ゲームや手遊びなどを一緒に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の二つの小学校との交流や、二つの中学校の職場体験などを通し、認知症の人の理解、関わり方を中心に人として理解することの大切さを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族と、行政の方を直接結ぶ場所であり、意見を伺うことが出来るいい機会であると考えている。サービスの評価、取組みなど、報告をしながらその都度意見を頂き、よりよいサービスへとつないでいる。	運営推進会議では、事業所の取り組み内容を説明し、意見や助言をもらいながら、意見交換を行っている。民生委員からも、地域の高齢者の課題について報告もある。会議で出た意見や助言を検討しながら、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	「ほほえみ便り」を届けながら、文字では見えないケアサービスの部分を見て頂いている。また、地域会議にて困難事例や取組みなど助言を得ている。	行政担当者に事業所の状況報告をし、困難事例については、アドバイスをもらっている。また、行政が主催する多職種協働研修会やグループホーム会議などに参加し、連携を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケア会議にて身体拘束をしないケアについて話し合い、身体拘束の条件、どんな行為なのか？など理解している。また、鈴やセンサーマット使用など、最小限の利用により、リスク回避へと結びつけている。	身体拘束をしないケアについて、常に職員で話し合い、回避する方法を検討している。夜間は、利用者の安全の為、家族の同意を得て、センサーマットを使用する場合もある。日中は、玄関を施錠せず、見守りながら、利用者に寄り添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ケア会議にて、何が虐待にあたるのかを学び、職員同士で虐待のないケアができるよう話し合っている。また、虐待が見過ごされることがないよう、注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケア会議にて事例を取り上げながら勉強している。現在利用しておられる方はみえないが、必要となった時支援できる様関係者と連携していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時など利用者や家族のことを一番に考えながら不安を除くよう丁寧に説明させて頂いている。また、いつでも質問疑問には答えさせて頂くことをお伝えしながら、安心感を持って頂く事ができるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者へのアンケートは何気なく職員によって実施している。また、家族へのアンケートでは何も出てこないの、日頃より何気ない会話のなかででてきた要望等をその日の職員で話し合い、連絡帳、申し送りに記入し共有している。	毎月、利用者の近況を伝える便りを家族に送っており、意見や要望を聞きやすい関係が築けている。家族からの意見は申し送りノートに記入し、職員で共有している。家族会では、毎年、意見交換会を開催している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員同士の話の中で意見や提案をくみ取っている。また、個人面談の実施、法人への意見書箱の設置など、職員の意見や提案をきく機会を設けている。	管理者は、日頃から、職員が意見を言いやすいよう、風通しの良い関係づくりに努めている。また、意見箱を設置し、出された意見は、事業所及び法人全体の課題として捉えて検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃より個人面談の実施など話せる機会を設けている。また、希望する研修には参加して頂けるよう、声をかける事で向上心を持っていただけるよう、支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修、スキルアップ研修など力量にあった研修が受けられるよう支援するとともに、希望の研修が受けられるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域会議や他職種協働研修などを通し、事例検討を行ったり、各サービスの細かな内容などを理解する機会を得ている。また、その情報をケア会議にて職員間で共有し、サービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前より見学して頂き、ご本人の不安を過ごしでも除く努力をしている。また、情報を職員間で共有し、日々の生活の中での変化など不安が安心に結びつくよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より見学して頂き、ご家族の不安を少しでも取り除く努力をしている。また、家族の想いを大切に、不安や要望を職員間で共有しながら、sン来関係が築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前より気軽にホームに来て頂き、見学する中で、本人、家族の想いを聞く努力をしている。また、その思いを介護計画におとし、支援できることを細かく分析し、職員全員が同じ支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の思いを大切に考え、職員が寄り添う中で、できることとできないこと、やりたいことなど見極めている。食器拭き、盛り付けなど、家事を中心に職員と共にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時はお二人の時間を大切に考え、最近の生活などお話しする中での家族の想い、本人の想いをくみ取り、暮らしの中で生かしていけることを探りながら関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的にお願ひして来て下さる理容の方とは気軽に髪型について要望を伝える事ができている。また、スシロー、ココスなど外食や軽食を楽しむ事が出来る場がある。	職員は、家族や知人が気軽に訪問しやすい雰囲気作りに努めている。墓参りや本人の馴染みの場所へは、家族の協力を得て出かけている。正月には、職員と一緒に初詣に出かけることを恒例にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話のなかで、場合によっては話の橋渡しをしたり、アドバイスをしたりと、間に入って、良い関係づくりが出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても家族や本人の不安が生じないよう、必要に応じ、情報提供を行い、サービス提供者との連携に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人に寄り添う中で、本人の思い意向の把握に努めている。日々、変化する体調にも左右されるため、職員間で情報を共有し、ケア会議で話し合いながら把握に努めている。	日々の暮らしの中、特に、入浴時や個別対応時などに、本人の思いを聞いている。職員は、出勤時に各利用者の居室に行き、その日のあいさつをしながら、居室だからこそ話せる思いを聞くこともある。	個別に意向を把握するだけでなく、みんなの意見を聞くお茶会など、リラックスした環境で、利用者同士の関係を通して意見を聞く機会を設けることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族との中で、得た情報を毎日の申送り時に確認するとともに、必要なことは連絡ノートに記入し、職員全員で情報を把握できる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の生活の中での情報は申送り表や介護記録にて把握している。特に、変化などある時は、連絡ノートに記入することで全職員で把握し共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の想いを一番に考え、大切にしている。どう生活したいか、など日々の生活の中で出てきた意見を介護計画として反映できる様努力している。	日々のケアで気づいたことを家族に伝えながら、利用者と家族の意見を介護計画に反映させている。モニタリングは職員全員で行い、次の計画に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での気づきなど、職員間で共有し、介護計画へと結びつけている。また、その中で協力医、訪問看護士、栄養士などアドバイスを頂きながらより良いケアへと実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時を含め、他科受診に家族、本人の了解の下一緒に付き添っている。また、必要物品などの購入などは一緒に出掛けて下さることがある。		

岐阜県 ほほえみグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われるまつりに、作品を出展している。また、民謡、生け花展など地域の方から声をかけて頂き出て掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を一番に考え、受診して頂いている。緊急時など24時間体制で連絡が取れる状態にあり、家族との連絡も密にし、適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者と家族の希望するかかりつけ医を継続受診している。緊急時には、訪問看護ステーションと主治医との協力体制が確立され、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中での気づきは訪問看護師に伝え、相談をしている。必要があれば受診し、訪問看護師との連絡の中で支持を頂きながら利用者の安心へとつなぐことができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関があり、入院先の担当医、支援相談員との連絡を密にし、訪問看護師、主治医と早期に退院できるよう情報交換、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針において、利用者家族の想いを確認している。重度化した場合は、協力医と訪問看護師と職員や家族と相談し、できる限りホームでの生活が継続できる様取り組んでいる。	重度化や終末期について、対応できること、できないことを家族に説明している。看取りを希望される場合は、主治医・訪問看護師と連携を取りながら、その都度、家族と話し合い、支援の方針を関係者で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修にて、AEDの使い方など勉強している。また、消防署にて行われている研修に参加し、手当の方法、心肺蘇生法など勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、消火訓練、通報訓練、避難訓練を行っている。また、水害時に備え、車いすの方を階段を使い2階へ移動する訓練をしている。	災害時の対応マニュアルに沿って訓練を行い、備蓄の管理もしている。訓練は地域住民の参加を得て、実践に近い形で行っている。訓練を通して消防署からのアドバイスをもらっている。	広域災害時を想定して、同法人の事業所との協力体制をどのようにするのかを確認し、緊急時に備えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「言われて嫌な事は言わない。やられて嫌な事はやらない」を基本に、何がプライバシーの侵害になるかをホーム内研修にて話し合い、一人一人を尊重できる職員の意識を持っていけるよう話し合っている。	職員は、自分自身や自分の親がされて嫌なことをしないということを、常に意識している。過剰な支援にならないように、一人ひとりの人格を尊重して、利用者と向き合っている。言葉かけは、笑顔で目線を合わせて行うよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に寄り添う中で、職員が得た気づきや、利用者の想いを全職員で共有し、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の習慣を大切にし、食後の居室でのひと眠り、また、好きなテレビを見られる方、趣味の手芸をされる方など、ご自分のペースにて生活できる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容師の定期的な利用により、利用者も好みを表出できるようになった。また、迷われるときなど、職員の声掛けにより本人の想いを伝える事が出来るようになった。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けを手伝ってくださる方、片付けを手伝ってくださる方など、できることを率先し参加頂いている。食事においては、箸、スプーンと使いやすい物を使用し、小さめのおかず、ミキサー食などと利用者に合わせて工夫をしている。	利用者は、食事の準備や片付けなどに、率先して関わっている。食事は、会話を楽しみながら、自分のペースでゆっくりと食べられるよう、利用者の状態に合わせて支援している。誕生日には、希望に沿ったお店での個別外食支援を行い、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量については体調に合わせて一日の摂取量を測って目安としている。また、塩分を控える方へは、栄養士の指導により、おいしく食べて頂けるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアのできる方、また、途中までご自分でを行い、仕上げをさせて頂くなど支援をしている。舌苔も気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	何気ない排泄のサインを見逃さないよう気配りをしている。声掛けの必要な方にはさりげなく声をかけさせて頂いている。立位の出来ない方も、トイレでの排泄を基本とし、2人介助にて支援している。	自分でトイレに行ける利用者の場合は、排泄の自立を妨げないよう、必要以上に手を出さずに見守っている。リハビリパンツから布パンツに改善した利用者もあり、機能維持とトイレでの排泄の習慣化で、自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝一番の牛乳の摂取を希望される方には用意させて頂いている。また、水分量の少ない方に対し、細めな接種が出来るよう支援している。時にはお腹のマッサージをしたり、歩いたりして工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	早く入りたい方、ぬるい湯の好きな方、熱い湯の好きな方など出来るだけ希望に沿った支援をしている。	入浴は利用者の希望に沿って対応しており、心休まる時間となるよう支援に努めている。重度の利用者の場合は、シャワー浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居間にてウトウトしておられる方には、居室で休んで頂けるよう声掛けをしている。また、時間を心配される方には、何時に起こさせて頂くか相談し、安心して休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には、日にち、名前、朝昼夕を確認をし、掌に乗せ、ご本人と共に確認をしている。また、体調の変化がある時など、訪看を通し、主治医に相談しながら支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事への参加を基本とし、強制的ではなく、ご本人と相談しながら参加して頂いている。洗濯たたみ、食器拭き、テーブル拭きなど、利用者の間でも声を掛け合いながら参加して下さっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望によって散歩に出かけている。気候に左右されるが、玄関の花をながめることもある。今年も家族の希望もあり、お弁当もちで花フェスタ記念公園に出かける事ができた。最近目の前にバローが出来たので、上手く利用していきたい。	近隣のスーパーに買い物に行き、コーヒーを飲んで帰ってくるなど、日常的に散歩と外出を楽しんでいる。桜の季節に、近所の桜の木の下で、お茶を飲みながらお菓子を食べたり、家族の協力を得て、地域のイベントや公園などへ出かけている。	



岐阜県 ほほえみグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額ではあるが、ご自分で管理のできる方にはもって頂いている。買い物に出かけた際には、ご自分の財布より支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解の下、希望時には電話を使用して頂いている。季節の葉書など、書いて頂く事ができるよう工夫し支援していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一日の中で長く過ごすのが居間である為、大勢で過ごすときは室温、湿度が気になる為、早めにエアコンをいれるようにしている。また、季節の花を摘み、テーブルに飾ることで会話もはずみ、笑顔も多く見られている。	共用の間には季節の花を飾り、利用者に日付が分かりやすいカレンダーがかけられている。個々の作品や、利用者の共同作品も飾られている。温湿度は快適な状態になるように配慮され、ソファでゆっくりと寛ぎながら、テレビを見たり、居心地よく過ごせる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファが好きな方、テーブル席が落ち着く方など、好みに応じさせて頂いている。一人で黙々とパズルに取り組んだり、一つのパズルを二人で取り組んだり、思い思いの生活ができるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたタンスを設置し、衣類の管理をご自分でされている。また、位牌を起き、朝夕とお経を唱え、お話をしておられる。	備え付けの洗面台と押し入れがあり、整理整頓しやすい造りになっている。使い慣れた家具を持ち込み、写真や手作り作品、ぬいぐるみを飾り、自分好みの居心地の良い部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の分からない方には名札を付けさせて頂いたり、ご自分のぬいぐるみを目印にしてほしいとの要望にて入口に付けさせて頂いている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2173100351	
法人名	医療法人純真会	
事業所名	ほほえみグループホーム (2F)	
所在地	岐阜県可児市下恵土3005番	
自己評価作成日	平成30年8月22日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成30年9月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(2F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内の見やすいところに理念を掲示し、それに従ったサービスができるよう職員全員が共有、実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、秋祭りなどの行事のチラシを配り声掛けをし、参加して頂くように働きかけている。散歩時などには挨拶をし、交流を持つようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生、中学生などの職場体験、訪問時などに認知症に対する支援の仕方を理解してもらえるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	同法人の他施設とも合同で2ヶ月に1回開催し、利用者様、家族、地域の方、行政の方と話し合い、情報交換と共に、より良いサービス向上に努力している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設のお便りなどを配らせて頂き、実情やケアサービスの様子を伝え、助言などもいただくようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケア会議中のホーム内研修で身体拘束について学習し、職員全員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア会議のホーム内研修で虐待防止について学習し、日頃から職員同士話し合い、虐待の無いケアに努めている。		

岐阜県 ほほえみグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケア会議のホーム内研修を行うとともに他で行われる研修などにも代表が参加し、職員全員に報告、理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、施設の考え方や取り組みを説明し、納得、理解をしていただくようにしている。改定などの際もきちんと説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族とのコミュニケーションに心がけ、家族会での話し合いやアンケートなども行い、利用者、家族の意見要望を取り入れるように心がけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の会議で職員が意見を出せる機会を設け、時には個人面談なども行い職員が意見を出しやすい環境を作るようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談などで仕事上の悩み、不安などを伝えることができ、法人主催で職員のスキルアップ研修なども行われ、職員が向上心を持って働ける環境ができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員はホーム内研修のほか、法人主催の研修、ほかの機関主催の研修などにも参加できる機会を与えられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業の異職種交流会への参加の機会があり、ネットワーク作りや勉強会を通して、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、その後も、利用者の意見や不安なことを話しやすい環境を作るように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、施設内を見学、他の利用者の様子を見ていただき、質問や不安な事、要望を出しやすい環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報提供を参考に家族、本人と話し合い、必要な支援を見極め、プランを立てるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や軽作業などを職員と一緒にしてもらい、利用者の知識や経験なども話しやすい環境づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	記録を読んでいただき、家族会に参加していただき、意見や要望を出しやすい環境を作り、ともに本人を支えていくという関係を意識できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別外出支援の計画を立てるときに、本人の思い出などを一緒に振り返ったり、入社前の知り合いの面会時には、ゆっくりと過ごしてもらえそうな環境作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時に職員が間に入り、利用者同士のコミュニケーションがスムーズにいくように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され他施設への移動があった場合にも、情報提供を行い、相談や支援ができるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が意見や要望を伝えやすいように普段の生活の会話の中から聞き出せるようにし、言葉で伝えられない方には気持ちを寄り添い、本位に気付けるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供や家族からの聞き取りから、これまでの生活歴などを把握し職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、申し送り表で一人一人の現状を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がたたき台となるプランを作成し、ほかの職員がそれに目を通し意見を伝え、ケア会議で最終的に作り上げるまでの話し合いをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人、家族の思いを聞き取り、ケア会議で話し合い記録、申し送りで職員間で情報を共有して計画の先性や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の体調の変化などで身体的不安が生じたときには、訪問看護師に相談したり、院長の指示を受け、受診をするなど、柔軟な対応ができるように努めている。		

岐阜県 ほほえみグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われる行事(祭り、幼稚園行事、福祉運動会、カフェ)などに参加できる機会を設け、心身の力が発揮できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	本人、家族の納得しているかかりつけ医に受診してもらったり時には付き添いなども行い、関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	訪問看護師の定期的な訪問のほか、利用者の体調不良時にはすぐに相談できる連携が保てるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報提供を提出し、その後も訪問看護師と共に医療連携室との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、その後体調の変化が生じたときには本人、家族と十分な話し合いを持ち、和やかな終末期に向けて、かかわる者みんなの方針を共有できるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内外研修などで、緊急時の対応について学習し、会議などで発表し、職員間で共有するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いの訓練、ホーム内での訓練を行い、災害時の利用者、職員の動きについて全員が把握できるように努めている。訓練時、近隣の住人の方にも声掛けをし、可能な時には参加をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々にあった言葉かけを行い、プライバシーを確保し、尊重の気持ちを大切に対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれにやりたいことなどの希望を言いやすい環境を作り、実行できるような支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個々のペースに合わせて、柔軟な対応ができるように努めている。作業や手伝いなども自主性を重んじている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えをご自身で選んでいただけるよう支援し、整容についても希望に沿って行ってもらえるよう努めている。(髭剃りのタイミング、ヘアスタイルなど)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々は食器吹き、盛り付けなどできることを手伝ってもらったり、時にはお好きな料理をお聞きして、誕生日や行事の時には特別な食事を心がけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録を間で共有し、脱水状態となっているときには水分量、排せつ量を記録し、提供の目安をわかりやすくしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後の口腔ケアは個々の状態に合わせて歯ブラシなども選んで行っている。できるだけご自身で(きちんと行えるよう声掛けをしながら)、困難な場合には介助により丁寧なケアを行っている。		



岐阜県 ほほえみグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方にはご自身のタイミングでトイレいってもらい、時間が開いているときには声掛けを行うこともある。入所時リハパンの方も布パンツに移行できる方向に努めている。介助の必要な方には定期的なトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を把握し、水分摂取、運動を促し、乳製品の提供、便秘時にはその方にあつた処方されている便秘薬で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	時間帯など施設の都合で決まってしまうこともあるが、できる限り希望を聞き入れられるように努めている。(入浴順、湯温など)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じて午睡をされたり、就寝時間を決められている。日中活動されることにより、夜間の熟睡を促すように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬については説明書をファイルしてありいつでも全職員が確認できるようにしてある。臨時薬などについては申し送りで把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の希望に合った作品作り、それぞれにできることのお手伝いをお願いしている。(廊下のモップ掛け、食器拭き、洗濯たたみ、畑仕事など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	度々の外出はなかなかできない中、外出支援では本人の意向に沿って計画し、安全に遂行できるように努めている。散歩などはタイミングに合わせて随時行っている。		

岐阜県 ほほえみグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段はホームで預かっているが、本人の希望のものがあれば購入していただき、外食などでも希望のものを食べてもらえるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書かれることはほぼないが、電話を希望されるときには応えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のカレンダーは月が替わるごとに職員が変え、日にちの認識ができるようにしている。居間や廊下には季節を感じられる壁面飾りなどを職員、時には利用者も一緒に作成して飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	今のテーブル席やソファで、利用者同士が自由に会話を楽しめるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室は家族が持ってこられたタンス、机、いすなど、それぞれに使い慣れたものを置いてもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所レなどわからないところには矢印や名前を書いてご自身で分かるようにしている。		